

日本人の聞こえに寄り添って72年 「補聴器を使い続けたい」という 思いを支え続ける

リオン「リオネットプレシアII」

補聴器をずっと使い続けてもらうために——。
今年6月に72周年を迎える国産補聴器メーカー、リオンの信念が
「リオネットプレシアII」を生み出し、アフターケアにもつながっている。

リオンは七十年以上にわたって日本の補聴器文化を支える国産の補聴器メーカーである。製品の開発から販売後のフィッティングのフォローまで気にかけて、「補聴器を長く使い続けてもらう」ために心を砕いてきた。

同社の製品を手にとれば、その思いの深さが分かる。例えばほとんどのリオネット補聴器には、ボタン電池をブラスマイナスどちら向きに入れても正常に作動する「おまかせ回路」機能が搭載されている。「小さなボタン電池の交換がわずらわしい」という悩みに応えるべく、同社が独自に開発したものだ。毎日使う補聴器だからこそ、こうした気配りが生きてくる。

また、ユーザーが補聴器を購入した後も、フィッティングのフォローなどで積極的に関わっていく。リオネット補聴器の販売店と協力し、ユ

リオネット補聴器の フィッティング ポリシー

私たちは、
補聴器フィッティングの
全ての段階において、
お客様に補聴器を
使い続ける気持ちになって
いただくことを
最優先します。

ーザーサポートにあたる同社の三上敦史氏は話す。「補聴器を『耳の一部』として使いこなすには、やはり時間と訓練が必要です。継続的なフィッティングの支援などを通じて、お客様の聞こえに

関わり続けていくこと。それをもまた、私たちの責務だと考えています」

フィッティングとは一般的に補聴器を装着する前の聞こえの調整作業を指すが、同社では「お客様の生活環境やライフスタイルに合った最適な

補聴器を提案し、快適な聞こえを手に入れてもらうまでのサポート」すべてが補聴器の活用に不可欠であると考え、関係性づくりに力を注ぐ。

先ごろは企業文化として引き継いできたこの理念を「フィッティングポリシー」として明文化。全国に展開するリオネット補聴器の販売店とも共有し、息の長い聞こえのサポートに取り組んでいる。

「お客様がびったりの補聴器に出会い、『補聴器を使い続ける気持ち』になっていただ

くために、すべての過程で力を尽くしていきます」
ユーザー視点で
製品を進化させる

リオンが掲げるフィッティングポリシーは、さらに進化した補聴技術の研究開発にもつながっている。日本人の聞こえに寄り添った補聴器を開発したい。その姿勢が、最新機種「リオネットプレシアII」を生み出した。「SSSSP eech+（サウンド・スピークトル・シェイピング スピーチプラス）」を搭載し、日本語の聞き取りやすさを強化



森本隆司（もりもと・たかし）
リオン株 医療機器事業部 開発部 補聴器開発三課

した画期的な補聴器だ。開発に携わった同社の森本隆司氏はこう説明する。「そもそも日本語は、欧米の言語に比べて母音の役割が大きい言語。SSSSスピーチプラスは従来よりも母音の特徴を際立たせやすくしています。子音だけでなく母音もはっきり聞こえやすくなれば、日本語の聞き取りが改善され、自然な会話に役立つと考えています」
今後は、SSSSスピーチプラスの精度に磨きをかけていくという。
「聞こえを通じて、難聴の方が社会とつながり、コミュニケーションを楽しむ一助となる。そんな補聴器を目指していきます」
創業以来一貫して、日本人の聞こえの改善に真摯に向き合い続けてきたリオン。その姿勢は、これからも続いていく。

聞こえ・自立ちにくさ・つけ心地、
全てが日本品質。
日本人のための、
日本人生まれの
補聴器です。



RIONET PRECIA II
リオネットプレシア ツー

日本語の聞きとり
にこだわった新機能
Speech+

電池交換が簡単!

リオネット独自の「おまかせ回路」で電池のプラス・マイナスをどちら向きに入れても補聴器は正しく作動します。



リオネット補聴器
イメージキャラクター
本田望結さん

リオネット補聴器の販売店のご案内やカタログのご請求は

0120-2933-76 (受付時間 9:00~21:00)

●聞こえが気になったら、まずは耳鼻咽喉科での診察をお勧めします。●補聴器は使用開始前に個々の難聴や「聞こえ」の程度に合わせてフィッティング(調整)することが必要です。
○販売名:補聴器HI-C3CS/補聴器HI-C1CS/補聴器HI-C2CS/補聴器HI-G8CS/補聴器HI-B1CS/補聴器HI-B1CS/補聴器HI-B1CS

Quality of Sound, Quality of Service
リオネット補聴器